

株式会社デジタルメディアプロフェッショナル
第24回定時株主総会 質疑応答要旨

【ご質問1】

Di1の年間量産数量について教えてほしい。また、2026年度のDi1への投資額の見込について教えてほしい。

【ご回答1】

・量産数量について

現在Sparsh社とのカメラ開発において、初年度5万台、2年目10万台、3年目には数十万台の目標を設定しています。また、Sparsh社以外の顧客への展開も進めており、複数顧客を合わせれば年間数十万個は十分に視野に入ると考えています。さらに中長期的には、ドローン用途での需要拡大に加え、将来的に自動車分野の仕様に対応できれば、百万個規模の市場も見込めると考えています。(山本)

・Di1への投資額について

2026年度のDi1関連投資については、チップ開発そのものは完了しているため、主に顧客アプリケーションに合わせた開発や展開国における規格対応費用が中心になります。具体的な金額の詳細開示は差し控えますが、現時点では1億円程度を見込んでいます。(大澤)

【ご質問2】

技術・知識の急速な進化に対して、現在の役員体制では対応に限界があるのではないかと。40歳前後の若手人材を役員に登用するなど組織の刷新が必要ではないのか。また、リカーリング収益拡大の具体的な内容・考え方について教えてほしい。

【ご回答2】

・役員体制について

役員体制については、年齢のみを基準とするのではなく、技術・事業環境の変化に対応できる専門性、実行力、多様性を重視しています。当社は、若手人材の採用や外国人の登用に加え、AIおよびAIエージェントを業務・開発プロセスへ積極的に導入することで、海外と遜色ないレベルで、組織全体の生産性向上、意思決定の迅速化、技術開発の加速を目指しています。(山本)

・リカーリング収益について

当社の原点であるIPライセンスビジネスにおけるリカーリング収益を成長ドライバーの一つとして位置づけています。現在、IPライセンスビジネスの売上構成比は10%以下となっていますが、これを従来の水準まで回復させたいと考えています。また、リカーリングビジネスの競争力、利益率は自社技術をベースとするか否かで大きく変わってきます。独自性の高い自社開発技術を基盤とした競争力のある継続収益モデルを構築していくことが当社の目指すべき方向であると考えています。(山本)

【ご質問3】

株価・出来高の低調な要因として、一般投資家への訴求不足や安定株主比率の低さが挙げられると考えます。YouTubeチャンネル等を活用したわかりやすい広報活動や資本政策の改善について教えてほしい。

【ご回答3】

当社の技術や強みが十分伝わりきっていない点については課題と認識しています。今後は、IR 担当執行役員を中心に積極的かつわかりやすい IR 活動を展開していく予定です。Youtuber のものづくり太郎氏とは既に接点を持っていますし、YouTube だけでなく各メディアの活用を検討しています。また、資本政策についても常に検討を進めており、当社の企業価値向上に資する資本提携の可能性について、よい機会があれば積極的に推進したいと考えています。(山本)

【ご質問4】

売上・利益の計上が投資家の期待より半年から1年程度遅れているのではないかと。中長期的な売上・利益率の見通しについて教えてほしい。

【ご回答4】

半導体事業はチップ開発に2～3年、顧客製品への導入にさらに2年程度を要するなど、売上計上までに相応の時間がかかる構造的特性があります。当社としては、現在進めている案件を着実に量産・収益化につなげることで、中長期的な成長を実現してまいります。利益率は製品ポートフォリオオミックスによって大きく変わるため、付加価値の高いリカーリングビジネスやモジュールビジネスを組み合わせながら、売上成長と利益率向上の両立を目指していく方針です。(山本)

【ご質問5】

Nvidia 社と比較して当社が強みを発揮できる領域・独占を狙える分野があるか。また、人材獲得の際に、学会へのブース出展等による新卒採用へのアプローチを検討しているか。

【ご回答5】

・強みを発揮できる領域について

当社は Nvidia 社と協調関係にあり、同社製品も販売しています。当社は、特にビジュアルコンピューティング領域や ISP 領域において、カメラやエッジデバイス内部で行う低消費電力・高効率な演算処理に強みがあります。小型・低消費電力・高性能の両立が重要なこれらの領域で強いポジションを確立できると考えています。(山本)

・人材獲得について

当社の技術領域は高度で専門性を要するため、新卒よりも経験を積んだ中途採用を中心に考えています。今後は、中途採用フェア等の活用も視野に入れてまいります。(大澤)

【ご質問6】

業務スピードの向上は訓練で実現できる。実力主義的な環境で競争に耐えて先頭を走って欲しい。

【ご回答6】

貴重なご助言として真摯に受け止め、今後の人材評価・人材育成の取り組みに反映してまいります。(山本)

以上